

九州ルーテル学院大学 「こころとそだちの臨床研究所」

「第2回 臨床実践の基礎講座」

この度、九州ルーテル学院大学「こころとそだちの臨床研究所」では、心理支援に従事する対人援助職の方（例：公認心理師、臨床心理士、精神保健福祉士、学校教員、看護師、保健師等）（*注）を対象とした基礎講座を開講いたします。心の支援をする中で、しっかり学んでみたいこと、学び直してみたいこと、これから活かしていきたいことなどがあれば、ぜひ一緒に学んでみませんか。たくさんのご応募お待ちしております。

*該当するかご不安があれば、下記まで遠慮なくお問い合わせください

<開催概要>

会場：九州ルーテル学院大学とオンラインのハイブリッド

時間：各講座の紹介欄を参照

受講料：2000円（1講座） / 10000円（6講座一括申込）

*本学大学院生、研修相談員の方は無料

*大学院修了生は1000円（1講座）

申込：各講座の紹介欄記載のリンクより

主催：九州ルーテル学院大学こころとそだちの臨床研究所

共催：九州ルーテル学院大学アウトリーチセンター

お問い合わせ：九州ルーテル学院大学人文学部心理臨床学科

(Tel: 096-343-2806 / Mail: tunematu@klc.ac.jp)



*各講座の詳細（内容・日にち）については裏面をご覧ください。

第1回「カウンセリングの技術～話の聞き方～」7/10（金）19:00-20:30

講師：古賀香代子（九州ルーテル学院大学）

内容：カウンセリングでは、「今ここで起きていること（Here and Now）」に注意を向ける姿勢が重要です。では、なぜその視点が必要なのでしょう。また、共感や傾聴が有効とされる背景には、どのような臨床的意味があるのでしょうか。本講座では、こうした問いを手がかりに、セラピストが身につけるべき“聴く姿勢”と“あり方”を解説します。多くの初学者は、面接技法や心理療法の理論を学ぶ一方で、それらを実際の対人場面で使いこなす訓練を十分に経験できていません。自分の面接を第三者に見てもらい、具体的なフィードバックを受ける機会は限られており、実践の中で迷いや不安を抱えやすいのが現状です。自転車の乗り方を本で読んでも乗れるようにならないように、カウンセリングも知識だけでは身につけません。何度も練習を重ね、自分の内側に生まれる反応を観察しながら、少しずつ臨床家としての力を培う必要があります。

アナウンス：本講座では講義に加え、実践的な練習を行います。そのため、参加は対面のみとします。

申込：<https://klcgradschoolext2026-1.peatix.com>

第2回「子どもの発達と心のケア」9/18（金）19:00-20:30

講師：高野美雪（九州ルーテル学院大学）

内容：こどもの認知発達、健康支援などを研究のテーマとしています。大学と大学院では、教育現場における心理支援、健康教育、発達アセスメント、公認心理師養成に関する演習・実習などの科目を担当しています。

本講座では、こどもの発達に関する知識、こどもが辛い体験をした後の心のケア、こどもを取り巻く最近の動向として今年12月に施行されるこども性暴力防止法や日本版DBSなどについて紹介していきます。“こどもが元気に安全に暮らす”とはどんな環境や寄り添い方が必要でしょうか？一緒に考えていきましょう。

アナウンス：本講座は、対面のみで実施し、こどもの支援を行う専門職のみ対象の講座となります

申込：<https://klcgradschoolext2026-2.peatix.com>

第3回「緩和ケアにおけるこころの理解」10/23（金）19:00-20:30

講師：石坂昌子（九州ルーテル学院大学）

内容：緩和ケアの現場において、対人援助職として何ができて、できないのかを考える際、患者さんやご家族、かかわる専門職のこころを理解することが重要です。はじめに緩和ケアとは何かについて、ターミナルケアやホスピスケア等の関連する言葉も含めて基礎的な知識を学びます。次に、心の理解のための心理アセスメントのツール等について紹介をします。最後に、神経難病の事例を通して、緩和ケアのこころのプロセスを理解していきましょう。同時に、自分自身の死と生へのとらえ方を見つめ直す機会になればとも思います。緩和ケアに興味のある方、かかわっている方、立ちどまって考えてみたい方、いろいろな方々のご参加をお待ちしています。

申込：<https://klcgradschoolext2026-3.peatix.com>



第4回「受容・共感・一致：自分の臨床実践から言語化する」11/6（金）19:00-20:30

講師：恒松聡一郎（九州ルーテル学院大学）

内容：心の支援において受容と共感とは重要な基礎概念として根付いていますが、言葉の分かりやすさや、“基礎”という位置付けがなされているからか、“できる”と思われている側面があります。しかし、＜基礎であること＞と＜できること＞はイコールではなく、受容と共感の体現は本来とても難しいものです。このとき、日本語・日常的な「受容」「共感」と、専門用語としての「受容」「共感」は別の物と捉える必要があります。専門用語としての受容・共感について考える上で、C.R.ロジャーズは重要人物の一人です。ロジャーズは、長い臨床実践経験と理論的思索を経てこの概念を導出しました。すなわち、受容と共感とは、とても厚いものが込められて結実した概念です。その部分を加味せず、受容と共感を日本語・日常的に受け取り、即時に“誰でもできる”と捉えると、表面的な（あるいは非効果的な）支援に留まりかねません。この講座では、“厚いもの”の部分を知り、受容と共感、加えて一致（中核三条件）という概念を深く理解することを目指します。そして、三条件を自分の言葉で言語化していくという視点を大事にします。

申込：<https://klcgradschooext2026-4.peatix.com>

第5回「ゲームやネットにハマる子どもたちの理解と支援」12/4（金）19:00-20:30

講師：疋田忠寛（九州ルーテル学院大学）

内容：発ゲームやインターネットは、今や子どもたちの生活に欠かせない存在です。創造性やコミュニケーションを育む側面がある一方、長時間利用や依存的な使用への不安を感じている方も多いのではないのでしょうか。

しかし、ゲームやネットそのものを「悪いもの」として捉えるだけでは、子どもたちの実態は見えてきません。なぜその子がハマるのか——その背景には、承認欲求や自己効力感、居場所を求める心理など、発達段階に応じたニーズが反映されていることがあります。行動の表面だけでなく、その奥にある心理的な文脈を理解することが、支援者としての関わりの土台となります。

子どもたちがゲームやネットを楽しく、安心して使っていくためには、周囲の大人が正しく理解し、適切に関わることが何より大切です。「何を禁じるか」ではなく「何を求めているか」に目を向けることで、一人ひとりに寄り添った支援の形が見えてきます。本研修が、目の前の子どもを理解するための新たな視点となれば幸いです。

申込：<https://klcgradschooext2026-5.peatix.com>

第6回「痛みなどの身体症状と心理支援」1/23（土）13:00-14:30

講師：有村達之（九州ルーテル学院大学）

内容：3ヶ月以上続く痛みを慢性痛と呼びます。慢性痛に対しては薬物療法など医学的な治療が従来試みられてきましたが、治療の効果が乏しいことが問題になっていました。また、慢性痛には虐待や人間関係のストレスなどが影響することが知られるようになり、痛みを持つ患者さんに認知行動療法などの心理支援をする試みが増えています。今回の講座では痛みを持つ患者さんへの心理支援についてお話をします。痛みをはじめとする身体症状を訴える患者さんは自分の思いを言葉でうまく表現できない人も少なくなく（失感情症、アレキシサイミア）、疾病利得があることもしばしばですので、通常の対話を用いたカウンセリング、精神療法がうまくいかないことがあります。そのための工夫やコツなどについてお話ししようと思います。痛み医療の現場では認知行動療法が実施されていることが多く、一般的な対話精神療法は実施されていないことも多いのですが、その理由についてもお話ししようと思います。

申込：<https://klcgradschooext2026-6.peatix.com>